

Crown English Communication I, pp. 112–13.

Lesson 8

Not So Long Ago

“Looking Back at the Twentieth Century” is an exhibition of 300 photographs which show us the history of the past century. In the entrance hall the guide introduces the photographs.

—1

Ladies and gentlemen, welcome to “Looking Back at the Twentieth Century.” The 20th century was an age of great ⁽¹⁾progress in science and communications. People’s lives became richer and more comfortable. People achieved greater freedom and equality, and seemed to be closer to the dream of ⁽²⁾living a happy life.

But it was also an age of terrible wars, and tens of millions of people lost their lives. The photos here will show you what people like you and me ⁽³⁾went through in the 20th century. As you look at them, ask yourself: “How would you feel ⁽⁴⁾if these were photos of your own family and friends?” Some will shock you; some may make you sad or angry. But they will also give you a message for our future. Before you look at the exhibition, I would like to show you two photographs which are particularly important to us.

Lesson 8—Section 1

(1) progress 図 1, p. 1506.

prog·ress * /prɒ(:)gras|prɒʊgrɜs/ (1) 動と図で発音・強勢が異なるので注意 [pro (前へ) gress (進む)] ((名) progression, (形) progressive)
 図 (㊟) ~es /-ɪz/ 1 ㊟ «…の» 進歩, 発展, 上達, 向上
 «in, with» (→ development 類義) ▶ technological progress 科学技術の進歩/Ben is **making good progress** in [with] Japanese. ベンは日本語の力がどんどんついてきている (× ... making a good progress... としない)/monitor the **progress** of students 生徒の進み具合を観察する。

- 見出し語の横に、㊟の注記で名詞と動詞の発音の違いが記されているので確認させる。
- 二重山形かっこ« »を使った連語表示を促し、「«…の»進歩」という表現では«in, with»を使うことを理解させた上で、教科書本文や辞書の第2用例で確認させる。第2用例では太字になっている **make good progress** (大いに進歩する, どんどん力がつく)というコロケーションも重要なので覚えさせたい。この例では **good** は **progress** を強調しているのに注意。
- 第2用例には(× ... making a good progress としない)という注記があるので、㊟のロゴから不定冠詞は付かないことを理解させる。

(2) live¹ 動㊟ 1, p. 1129.

— ㊟ 1 (人が)…な暮らし[生活]をする (1) live a ... life または live a [the] life of ... の形で同族目的語をとる; → cognate [文法]. (2) 受け身が可能 ▶ **live a full [normal, good] life** 充実した[普通の, 良い]生活を送る/things that make **life worth living** 人生の生きがいとなるもの/**live the life of a rock star** ロックスターのような暮らしをする/**live one's life to the full(est)** 精一杯生きる。

- 同族目的語を取る live¹ は他動詞だと確かめさせてから辞書を調べさせる。主語の名詞にどのようなものがくるかを示す「選択制限」は山形かっこ〈 〉で示されており、教科書本文の主語が **people** と人であることから語義1に導く。教科書のこの部分は、**life** の前に **happy** という形容詞が来ていることから、「幸せな生活を送る」となることを理解させる。
- ㊟の注記(1)にある文法上の注意を参照させ、教科書本文や辞書の第1用例から、この文型で用いられる典型的な形容詞を意識させる。

(3) go¹ 動成句 go through A, p. 827.

go through A (1) A (悪い事・時期)を経験する; A (人生・生活)を送る; A (手術)を受ける ▶go through life [having two mothers [as a noncitizen, like a film star] 2人の母親をもつ[市民権のない, 映画俳優のような]人生を送る/go through a lot 多くの苦難を経験する。(2) A

- 教科書本文では go through が what + S + V (S が V する物[事])という関係代名詞節内に出てきているので, what が目的語であることをまずは意識させる。目的語があるので, 成句としては go through ではなく go through A を探させる。
- A に (悪い事・時期)などがくること(選択制限)が山形かっこ () で示されているので, 成句義(1)を参照させる。教科書本文では, 20 世紀という時代に人々が「経験した事」を写真で見せる, という文脈で使われていることを理解させる。教科書 p. 113 下部欄外, 「15. go through ~」で示されている例文や, 辞書の第 1 用例を参照させると, A が what ではない具体的な目的語になっているので構造が理解しやすい。

(4) if 代 3, pp. 966–67.

【仮定法】 3 [[仮定法過去; 現在の事実と反する仮定や現在・将来起こりそうにない状況を表して] もし…だとすれば; もしも…ならば (1) if 節は 動 の過去形, 主節には would, could, might, should などの 動 を用いる。(2) 1 と違って if 節の内容が起こりそうにないと話者が考えていることを示す) ▶If I had longer arms, I would [主に英・かたく] should be able to reach the ceiling. もっと腕が長ければ天井に手が届くのに (1) (1) 到底不可能なことに對する単なる空想。(2) 主節の I would [should] は I'd と短縮されることがある; →should 4) /He might succeed if he worked harder. 彼はもっと一生懸命働けば成功するかもしれないのに /If I was [かたく] were the boss, I would fire him. もしおれが上司だったら, あいつはクビだ (↓ 語法 (1)) /What would you do if you were [まれ] was me? 君が私ならどうするだろう (↓ 語法 (1)) /If I had a camera now, I could take a good picture of this. 今カメラを持っていればこれのいい写真が撮れるのに (1) 現在の事実と反すること) /If you caught the 8 o'clock train, you would [could, might] be there in time for the meeting. 8時の列車に間に合えば会議に間に合うようそこへ着くだろう[ことができるのに, かもしれない] (1) If you catch the 8 o'clock train, you will be (↑ 1 a) に近いが, その列車に乗れることはまずありえないと考えているか, 控えめにその列車に乗るようにという提案をしている) /If you could speak English more fluently, you would find a better job. もっと英語が上手に話せたら, 今よりいい仕事が見つかるのに (1) if 節の中に could を使うことも可能) /If you lost your passport, it would be awful. パスポートをなくしたら大変なことになります (1) 5 b の were to の意味で仮定法過去が用いられることもある) /If I knew what you were saying, I wouldn't be asking. 君が言っていることを知っていれば聞いていないよ (1) 5 b 仮定法過去の 動 に続く名詞節・形容詞節中では現在形より過去形の方が普通)。

【文法のポイント】 仮定法 (subjunctive mood)

現実とは異なる状況や, 起こる可能性が極めて低いことを想定して, それを元に「仮定・願望・後悔」などをいうときに使う, 特殊な動詞の形のこと。

- 仮定法過去の用法を調べさせるため, まずサインポストの【仮定法】を探させる。その後すぐに続く 3 の[[仮定法過去; 現在の事実と反する仮定や現在・将来起こりそうにない状況を表して]]という用法指示に注目させる。教科書本文では「もしこれらの写真に写っているのが自分の家族や友人だったら」というありえない想定となっていることから, この用法に当たることを理解させる。
- 訳語に続く 2 の語法注記をチェックさせて, 教科書本文の記述に合致していること (if 節の were, 主節の would や意味内容)を確認させる。
- 辞書の用例はどれも「現実と反する仮定」をわかりやすく表しているのので, 理解を深めるために適宜参照させるとよい。

Crown English Communication I, p. 114.

—2

Let's start with this one. This photograph was taken by an American photojournalist, Joe O'Donnell, in Nagasaki in 1945. He spoke to a Japanese interviewer about this picture:

“I saw a boy about 10 years old walking by. He was carrying a baby on his back. In those ⁽¹⁾days in Japan, we often saw children playing with their little brothers or sisters on their ⁽²⁾backs, but this boy was clearly different. I could see that he had come to this place for a serious ⁽³⁾reason. He was wearing no shoes. His face was hard. The little head was tipped back as if the baby were fast ⁽⁴⁾asleep.

“The boy stood there for 5 or 10 minutes. The men in white masks walked over to him and quietly began to take off the rope that was holding the baby. That is when I saw that the baby was already dead. The men held the body ⁽⁵⁾by the hands and feet and placed it on the fire.

Lesson 8—Section 2

(1) day 図 成句 in those days, p. 480.

in those days (1)〔文頭・文尾で〕その当時は(then).
(2)〔図の後で〕その当時の.

- 辞書では成句義をふたつ挙げてあるが、生起位置を示す〔文頭・文尾で〕という用法指示から、教科書本文は(1)に該当するというを確認させる。
- 辞書の同ページの成句欄に *these days* が立項されているので、意味や形を比較させるとよい。2にある情報(通例現在形で使うことや、in *these days* のように in を使うことは(まれ)、など)を確認させる。

these days・《話》〔副詞的に; 文尾・文頭・文中で〕(昔と比較して)このごろ(では)、近ごろ(では)、最近(では) (《よりかたく》nowadays) (→ now 読解のポイント、recently 類義) (1)〔→バズ〕nowadays と同様に、通例現在形で、時に現在進行形で用いる; 現在完了(進行)形、過去(進行)形で用いるのは(まれ)。(2)昔と対比しない場合は now, at the moment などの方が普通。(3)〔→バズ〕in *these days* (《まれ》); ただし、後に of 句を伴う場合は通例 in を伴う ▶ I've lost interest in politics *these days* [nowadays]. 最近は政治には興味を失った/These *days* [Nowadays], you can buy almost anything online. このごろはオンラインではほとんど何でも買える/People *these days* [nowadays] do all those things online. このごろの人はそういったことはみなオンラインでやる (2直前の名詞(句)を修飾する)。

(2) back 図 1, p. 138.

— 図 ⑨ ~s /-s/) 1 ④ 〔しばしば one's ~〕(人・動物の)背中、背、腰 (1 首 (neck) から臀部(でん) (buttocks) をさす); 背骨 (backbone) ▶ Bob stood with *his back* to the door. ドアを背にしてボブは立っていた/arch [curve] *one's back* 背中を曲げる/lie (flat) [land] on *one's back* あおむけに寝る[背中から落ちる]/have a pain in *one's* (lower) *back* 腰が痛い/carry a baby on *one's back* 赤ん坊を背負って[おんぶして]ゆく。

- 教科書本文が *their backs* と代名詞所有格と共に用いられていることを確かめさせる。〔しばしば one's ~〕という用法指示から語義 1 を参照させる。
- 2には具体的に身体の中の部分を指すかが記されているのでチェックさせる。
- 辞書の用例から「背中」「腰」という日本語に当たることを意識させる。特に第5用例は教科書本文と同じコロケーションなので、必ず参照させる。

(3) reason 図 1, p. 1563.

rea-son /ri:z(ə)n/ [語源は「計算」]
(形) reasonable, (副) reasonably

— 図 ⑨ ~s /-z/) 1 ④ 〔具体例では ④ a 《事の/…の背後にある》理由、わけ; 動機《for, of/behind》(1 of は by reason of A, for reasons of A などの成句を除いて(まれ)) ▶ What's the *reason* for your success? あなたの成功の理由は何ですか/One *reason* is ... Another [A second] is ... 1つの理由は…もう1つは… (1 ... には that 節のほか、図や to 不定詞も可能; that 節の場合 that を省略するのは(比較的まれ))/That's another [one] *reason* why cellular phones are useful. それが携帯電話が便利なおもう1つ[1つの理由です (1 ④→バズ) *reason* の前に修飾語がない場合は *reason* を省略して That's why ... とする方が普通)/the *reasons* behind one's failures 失敗の背後にある理由/for security *reasons* ≈ for *reasons* of security 安全上の理由で/(A's) *reason* for living [being] (A<人>)の生きがい。

- 1に「④〔具体例では④〕」とあるのに注目させる。もともと不加算名詞だが、修飾語が付くことなどにより具体性が増す場合は加算用法になる名詞に付けられている用法指示であることを理解させる。教科書本文では *reason* の前に形容詞 *serious* が付いていることや、少年にとっての「ある深刻な理由」を指していることから具体性が強まり、加算用法になっていることを理解させる。

(4) asleep 図 1, p. 115.

a-sleep /ə'sli:p/ [→sleep]

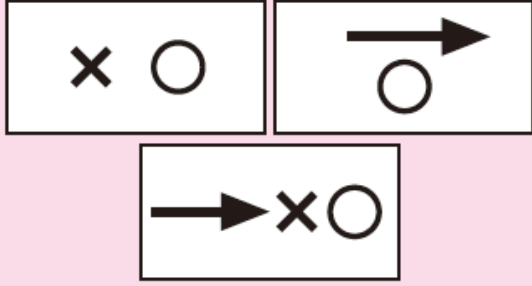
— 図 (比較なし)〔be ~〕 1 ④ (人が)眠って (→awake) (→sleep 類義) ▶ children *asleep* 眠っている子供たち (1 図の前では sleeping を用いる; ≈ sleeping [×asleep] children) / I stayed in the room until she *fell asleep*. 私は彼女が寝付くまで部屋にいた (1 fall *asleep* (→wake (up)) は無意識の行為を表す; 意識的行為は get to sleep で表す: I couldn't get to sleep [(まれ) fall *asleep*. 寝付けなかった)/be [stay] *asleep* in bed ベッドで眠っている/lie *half asleep* 横になってうつらうつらしている/be *fast* [sound] *asleep* ぐっすり眠っている (→sleep 認法)。

- asleep* には比較級・最上級はないことが、図ロゴの後ろの(比較なし)という記述からわかるので注目させる。
- 〔be ~〕という用法指示から、叙述用法で用いることにも意識を向けさせる。
- 太字になっている用例は、頻繁に使われるコロケーションなので必ずチェックさせる。基本的な第2用例や第4用例、特に第5用例は教科書本文と同じコロケーションなのでしっかり確認させるとよい。

(5) by 概念図, 図 7, pp. 269-70.

by¹ /baɪ/
(buy と同音)

平面の位置として「…のそばに」の意が基本で(↓5), そこから「通過・経路」(↓3, 4), 「手段」(↓2), 「時」(↓8, 9)の意や受け身と共に動作主や原因(↓1)を表す用法が生じた。また, 成句や複合語などでは, 比喩的に付随的・二次的な様子を表すことがある。



【近い位置】5 a 【位置】「…のそばに」[で], 「…のすぐ近くに」, 「…の脇(手元)に」(near, beside) (↓類義) ▶on the table by the window 窓際に置いてあるテーブルの上に/Sue was by the door. スーはドアのそばにいた/She sat by her husband. 彼女は夫のそばに座った。

【類義】近い位置を示す by, near, beside, at
by は near より距離が近いことを示し, 接触していることもあり得る。また, near は近ければ水平・垂直(左右・前後・上下)のどの方向でも示せるが, by は水平方向(左右・前後), beside は特に左右に近い位置をさす。また, by は地名の前では用いない。at も隣接した位置を示すが, by に比べ at は目的があつてそばに在ることを示す ▶a park by the river (川が見えるくらい近い)川沿いの公園 (a park near the river は「(実際には何キロか離れているかもしれないが)川からは遠くない公園」の意)/an airport near [×by] Seattle シアトルの近くの空港/stand by [wait at] the door ドアのそばに立つ[で待つ]。

b 【方位】…寄りの ▶north by northwest 北北西。

6 【通過・経路】(止まらずに)「…のそばを(通って)」(past よりゆっくり通過する) ▶The 32 bus goes by the park. 32 番のバスは公園のそばを通る/walk by a house for sale 売り物件の家のそばを歩いて通りすぎる。

7 【動作の媒介】【動 + A + by the B】A (人・物)のB (体・物の一部)を…する (by 介助) 主な動は catch, grab, hold, seize, take など ▶The man took me by the arm. 男は私の腕をつかんだ (≡ The man took my arm.) (前者が人と部位に重点を置く言い方なのに対して後者は部位のみに重点を置く)/grab the trunk by the handle トランクの取っ手を握る。

- ・ 語義の多い機能語を引く練習も, クラス内でさせておきたい。前置詞の場合は概念図を利用して, まず意味の全体像を捉えるとよい。教科書本文の by は「…のそば(近い位置)」を表す用法のバリエーションなので, 次にサインポストの【近い位置】を探させる。教科書本文は held the body by the hands となっているので, 7 の【動 + A + by the B】という文型表示を確認させる。
- ・ この文型で用いられる動詞が 2 の注記に挙げてあるので注意させ, 教科書本文の hold も含まれていることを確認させる。
- ・ 文型表示の A, B で使われる名詞にどのようなものがくるかという「選択制限」が山形かっこ 〈 〉 で記されているので確認させ, 教科書本文では A が body (「遺体」なので「人・物」のいずれとも考えられる), B が hands (「手」なので「体の一部」)になっていることを理解させる。
- ・ この文型の典型例として, 辞書の第 1 用例を参照させる。この用例には(≡)に続いて言い換え例が示されており, 2 の注記で解説されている 2 つの表現の意味合いの違いを理解させるとよい。

Crown English Communication I, p. 115.

“The boy stood there straight without moving, watching the flames. He was biting his lower lip so hard that it shone with blood. The flame ⁽¹⁾burned low like the sun going down. The boy turned around and walked silently away.”

(1) burn 動 ① 1, p. 257.

burn^{1*} /bə:rn/ [図の用法は16世紀から]
 ((形) burning)
 動 (～s /-z/; ～ed /-d/, ～t /-t/; ～ing)
 ① 1 (火・ろうそくなどが) 燃える; [[通例 be ～ing]] 〈物が〉燃えている, 火事である; [[～ C]] 燃えて C 〈状態〉になる (1 Cは図; 主なものは bright, hot, low, red, blue) ▶ The fire is *burning* brightly. 火は明るく燃えている/The candle *burns* blue. ろうそくは青く燃える。

- 教科書本文が burn low となっているので、
 ① の[[～ C]]の用法指示を参照させ、「燃えて C 〈状態〉になる」という意味と形を理解させる。
- 1 の注記に、補語的要素を表す C は形容詞であると示されているのでチェックさせる。注記に挙げられている形容詞には、bright (燃えて明るくなる), hot (燃えて熱くなる)や、教科書本文と同じ low (燃え方が弱まる=下火になる)などがあるので、確認させる。

Crown English Communication I, p. 116.

—3

Now let's ⁽¹⁾take a look at this picture. I'm sure some of you have seen it before. It was taken at the time of the Vietnam ⁽²⁾War in 1972. Here a young girl, Kim Phuc, is running down a road in pain, with her clothes burned off. This is what she once said about the experience:

“I didn't hear anything, but I saw the fire around me. And suddenly my clothes were ⁽³⁾gone

Lesson 8—Section 3

(1) take 動 3a, p. 1918.

【する】 3a [take an A] A〈1つの行為〉をする (1) Aは主に動詞派生の 図 で強勢を受ける; have にも同様の用法がある; ↓ 語法 コーバスの窓 (2) Aを主語にした受け身が可能 ▶ Take a close(r) [good] look at the facts. 事実を(より)綿密に[よく]見てみなさい/I haven't taken a breath of fresh air for a long time. 新鮮な空気は長いこと吸っていない/They're taking a larger step forward on the problem. 彼らはその問題に関していっそう大きな一歩を踏み出しつつある/I haven't taken a vacation in five years. 5年ほど休暇をとっていない。

語法 1語の動詞との相違 1語の動詞と違って1回限りの完結した行為を表し、よりくだけた言い方。また, take [have] an Aはその行為を楽しむことを暗示するので, 楽しむことが不可能な文脈では通例用いない ▶ drink some poison 毒を飲む (×take [have] a drink of poison). さらに, 前に修飾語を伴って表現を豊かにするだけでなく, 動詞句部分を長くして文体を整えるのに貢献すること多い ▶ take a brisk [country, guided] walk きびきびと[田舎道を, 案内してもらって]歩く/take a long [little] walk 長い距離を[少し]歩く。なお同様の用法は →give 8b, make 7.

コーバスの窓 take a + 図 と have a + 図

一般に take は《米》で, have は《英》で好まれる傾向があるが, 図 によって take と have のどちらかのみしか用いられないものや一方が優勢なものもある。他方, have と take がほとんど同じように用いられる 図 もある。

(1) 《米》《英》の差があるもの ▶take 《主に米》[have 《主に英》] a look 見る/take [have] a walk 散歩する (1) take は《米》で好まれ《英》では《かたく》響く; 《主に英》では go for a walk の方が好まれる。

(2) take/have のいずれかに偏りのあるもの ▶take [have] a break ひと休みする (1)《米》《英》共に take が優勢)/have [(主に米) take] a drink 飲む (1)《米》《英》共に have の方が優勢)。

(3) take/have をほぼ同じように用いるもの ▶take [have] a seat 座る/take [have] a ride 乗る (1)go for a ride の方が優勢)。

- 【する】というサインポストや, 文型表示の [take an A]から, 「A〈1つの行為〉をする」という 3a に導く。教科書本文の行為を表す名詞(A)は look であることから, 辞書の第1用例の take a ... look という形と, 「見る, 見てみる」という意味とをまず確認させる。

- コミュニケーションには欠かせないフレーズとして「take [have]+不定冠詞+行為を表す名詞」の用法を把握させることが重要。まずは 2 の注記(1)の解説から, 「A が主に動詞から派生した名詞であること」と「have も同様に使われること」の2つを理解させる。
- 語法 には1語の動詞との違いが記述されているが, 解説前半にある「名詞を使う場合は1回限りの完結する行為を示す, よりくだけた表現」という基本を押さえさせたい。
- 次に, take an A と have an A との比較が コーバスの窓 にあるので確認させる。コロケーションについては, ①使用域(《米》か《英》か)によって違うもの, ②用いられる名詞(A)によって違うもの, ③違いのあまりないもの, があることをチェックさせる。
- 最終的には, 具体例を見せて知識を定着させたい。教科書本文と同じ take a look の用例は, take のほかに look の項, 図 語義 1 の第1用例にもあるので, 参照させるとよい(p. 1142)。ここでは使用域の違いが明記されているので確かめさせるとよい。

図 (動) ~s /-s/) 1 [通例 a ~] a <…を> 見ること; <…への> 一見, 一瞥(5); 注視 <at> ▶take 《主に米》[have 《主に英》] a look at A Aを見る (→take 3a 語法)/squint for [to get] a closer [better] look at the detail 細部をもっとよく見ようと目を細める/give a quick look to Jim ジムにすばやく一瞥(5)を投げかける (↑ 成句) look to A (1))/shoot [throw, cast] him a look ≈shoot [throw, cast] a look at him 彼をちらっと見る/take [a second [one last] look もう1度[最後に一目]見る/sneak a look at her diary 彼女の日記をのぞき見る/take [have] a quick look around [(英) round] (the town) (町を)さっと見て回る。

(2) war 図 1, p. 2118.

war 図 1 (wɔːr / (u)-ar- は /ɔːr/; wore と同音)
 「語源は「混乱させる」」
 図 1 (u) ~s /-z/) 1 図 1 具体例では 図 1 «...との/...の間の» 戦争, 戦争状態; 戦時 (→peace; →battle) «with, on, against/ between» ▶War broke out between the two countries. その2か国間に戦争が勃発した/be killed in World War II /tu:/ [the Vietnam War] 第2次世界大戦[ベトナム戦争]で戦死する (u) 固有名詞 + war には通例 the が付く) /win [lose] a war with France フランスとの戦争に勝つ[負ける]/declare war on [against] Germany ドイツに宣戦布告する/the war between Iran and Iraq ≡ the Iran-Iraq war イラン・イラク戦争/fight a war [in a war] 戦争を行う[で戦う]/a nuclear [conventional] war 核[核兵器を用いない]従来型の戦争。

- 見出し語の横にある 図 1 の発音注記をチェックさせる。
- 第2用例が教科書本文と同じ形なので注意させる。用例に続く 図 1 の注記では「固有名詞 + war には通例 the が付く」と記されており、教科書と一致していることを確かめさせる。
- warを使った典型的コロケーションとして太字用例に触れておくのも効果的。

(3) gone 図 1, pp. 832–33.

gone 図 1 (gɔːn|ɡɔn/
 [→go¹, went 語源])
 動 go¹ の過去分詞。
 図 1 (比較なし) 1 [be ~] <人・物などが>いなくなった, なくなった, 失われた, 過ぎ去った ▶We'll be gone soon. 我々はもういなくなるよ/My pain is gone now. 痛みはもうない/The smile was gone from Laura's face. ローラの顔からははえみが消えた/Her bags were all gone. 彼女のかばんはすべてなくなっていた/The sugar is all gone. 砂糖をすっかり使い切った。

- [be ~]の用法指示から、叙述用法の形容詞であることを確認させる。
- 第1用例は人が主語だが、第2, 第3用例は感覚・感情といった抽象的なものが、そして第4, 第5用例や教科書本文ではカバン・砂糖・服といった具体的なものが主語になっていることを確認させる。さらに時を表す語(第1用例の soon, 第2用例の now)の使用や、よく使われる表現である all gone(第4, 第5用例)にも注意させる。

Crown English Communication I, p. 117.

because of the fire. And I saw the fire over my body, especially my arm. But my feet weren't burned. I was crying, and I was running out of the fire. I kept running and running and running.

“I was in the hospital. Fourteen months. I went through 17 operations to repair the burns over half my body. And that thing changed my life. It made me ⁽¹⁾think about how I could help people.

“When my parents first showed me the picture from the newspaper, I couldn't believe that it was me, because it was so terrible. I want everybody to see that picture, because in that picture people can ⁽²⁾see what war is. It's terrible for the children. You can see everything in my face. I want people to learn from it.”

(1) think 動② 2, p. 1967.

2 (問題解決のため) 物を考える; 頭を働かせる; «…について» (自発的に) 考える, 検討する, 思案する, 思索する, 熟慮する «about, of»; 『think about wh 節・句』…かについて考える ▶ Hmm ... let me think (about it [that]). うーん, ちょっと考えさせてくれ/All right, I'll think about it. わかりました, 考えておきます (しばしば即決を避けるための表現として)/I've been thinking ... it's time I settled down. 考えてたんだけど…そろそろ落ち着こうと思うんだ/“I'm thinking about it.” “Think hard.” 「今考えているんだ」「しっかり考えろ」/What are you thinking about [of]? 何のことを考えているのですか (ユー・バツ about の方が優勢; about の方が積極的に考えることを暗示)/What were you thinking of? (話) 何を考えてたんだ (人) 人の行為・失敗を非難して/think deeply about one's life 人生についてじっくり考える/Don't even think about (doing) it. そんなこと(をしようなんて[が起きるなんて])考えるな, 何考えているんだ (半ばあきれて)/I think, therefore I am. 我思う, ゆえに我あり (フランスの思想家デカルトの言葉)。

- まずは think の動詞項目には about とのコロケーションが複数出ていることに触れ, それから自動詞用法に注目させ, 『think about wh 節・句』という文型表示から 2 に導く。「…かについて考える」という意味から, 教科書本文が「どうしたら人を助けることができるかと考えるようになりました」という意味になることを確認させる。
- ② 2 では, 前置詞の about, of が後続するということを二重山形かっこ« »の連語表記«about, of»から確認させる。教科書本文は think about+wh 節・句になっているが, それ以外に think about, think of を取る形が辞書の太字用例で示されているので確認させる。いずれもコミュニケーション活動によく使われるものなのでチェックさせるとよい。

(2) see¹ インデックス, 動④ 4b, pp. 1692–93.

see¹ /si:/ (sea と同音)
[「見る, 会う」>「経験する」>「理解する」]

SVO(+) SVO(C) ④ 1 a 見える 1 b, 6 見る
5 考える 7 想像する
SVO ④ 2 会う
SVO SV(+) ④ 4 ② 2 わかる, 理解する
④ 3 ③ 3 見てみる, 調べる
SV(+) ④ 1 目が見える

b (話) 『(can) see (that) 節/wh 節』〈人が〉…であること […が]わかる (しばしば can を伴う; 通例進行形にしない) ▶ Can't you see she's angry? 彼女が怒っているのがわからないのか/(Do) you see what I mean? 私の言いたいことわかるよね; ほら言った通りだろう/I don't see why I should do that. どうしてそんなことをしなくちゃいけないのかわからない/It can be seen that …ということがわかる/In the previous chapter we saw how our generalization works. 前章では我々の一般化がいかに有効かを見た (論文で; 後の部分に言及する時は we shall [will] see ... が使われる)。

- see¹ は多義語なのでインデックスを参照させ, 「わかる」という意味の他動詞(④4) がどこに出ているかを調べさせると早く引かせることができる。
- 『(can) see (that) 節/wh 節』という文形表示から 4b に導き, 教科書本文の意味と形 (can が使われていること, wh 節が後続することなど)を確認させる。
- 教科書の 2 行下, 25 行目の see も同じく「わかる, 理解する」を表す 4a の用法であることもチェックさせるとよい。

4a 〈人が〉〈事〉がわかる, 〈事〉を理解する; …を見て取る, …に気づく (しばしば can を伴う; 通例進行形にしない) ▶ I can't see the point of doing that. それをすることの重要性がわからない/I see no reason [to [why I should] change my view. なぜ自分の考え方を変えなければいけないのかその理由がわからない/You can see that from these facts. そのことはこれらの事実からわかるよね。

Crown English Communication I, p. 118.

—4

So photographs ⁽¹⁾tell us a lot. They ⁽²⁾show us what happened in the past. They sometimes show us things we may not wish to see.

The 20th century was a century of war. There were two world wars, a cold war, and smaller wars all over the world. A Japanese journalist even called the 20th century “36,000 days of suffering.” It is perhaps difficult to find any ⁽³⁾sign of hope in the photos here, but we can if we try.

Kim Phuc’s story is a good example. With warm support from a ⁽⁴⁾great many people, she now enjoys a happy family life in Canada. She says, “I have to show my son what happened to his mom, to her country, and that there should never be war again.”

There should never be war again. This is the message we would like the photographs of this exhibition to bring to you today. I would like to

Lesson 8—Section 4

(1) tell 動他 5, p. 1937.

5『tell A B/wh 節・句/(that) 節』〈事・物などが A (人) に B (事) […か, …ということ] を示す, 知らせる; 『tell A + 副』A (人) に(…のように)示す; 『tell (A about) B』〈事・物が A (人) に B (事) について示す[語る] (1) いずれも進行形・受け身にしない) ▶His face *tells* you only half the story [*tells* it all]. 彼の顔つきからは事情の半分しかわからない[がすべてを物語っている]/A voice will *tell* you *which* number to press. 音声で何番を押せばいいか教えてくれる/My experience *tells* me otherwise. 私の経験則では違ったふうになる。

- ・ 発信活動に使う語彙として, tell が取る形と意味を押さえたい。教科書本文は「写真 (photographs)」が主語なので, 主語がどのようなものになるかを示した選択制限の山形かっこ〈 〉に注目させて, 他動詞の語義 5 の〈事・物〉を主語に取る意味に導く。
- ・ 『tell A B/wh 節・句/(that) 節』という文型表示から, 二重目的語構文や wh 節・句, that 節が取れることを確認させる。教科書本文は tell に us (私たち) が続き, a lot (多くの事) が続く tell A B の形であることを確かめさせた後に, 同様の形を取っている辞書の第 1 用例をチェックさせるとよい。

(2) show 動他 2a, p. 1741.

【見せて明らかにする】**2a** 〈人・物・事が〉〈事実・情報など〉を明らかにする, 示す, 証明する; 『show (B) A/(that) 節/wh 節』(B (人) に) A […ということ, …か] を明らかにする ▶The figures [data] *show* our sales performance. その数字 [データ] は我々の売上実績を示している/Our records *show* (that) he has not made any payments for a year. 我々の記録によると, 彼は1年間一切支払いをしていない/This chart *shows* (us) *how* people spend their spare time. この図表は人々がどう余暇を過ごすかを示している/show a profit [loss] 〈会社などが〉利益[損失]を出す。

- ・ 『show (B) A/(that) 節/wh 節』の文型表示を手掛かりに他動詞の語義 2a を参照させる。教科書本文では us があることから, 「B (人) に」の部分は省略されていないことを確認させる。二重目的語構文を取る場合は, (1) の tell の場合のように tell A B と表記されているが, ここでは間接目的語が省略されることもあるため, 必ず現れる直接目的語の方が A, 間接目的語の方が B となっており, (B) が省略可能であることを表すかっこに入っていることに注意させる。
- ・ 教科書本文は show B wh 節になっていることを確かめさせる。少しこみいった文章になっているが, 教科書同ページの 13–15 行目には B にあたる my son に続いて wh 節があり, 加えて that 節も伴う例が出ているので, 一緒にここで触れておくのもよい。

(3) sign インデックス, 図 1, p. 1750-51.

sign /saɪn/ (U-g- は発音しない; sine と同音) [原義は「身ぶり」] ((名・動) signal, (名) signature)

【予兆】図 1 表れ, 兆し, 気配
【目印】図 2 標識, 看板 3 合図 4 記号
SVO ① 署名する 2 契約する 3 (身ぶりで) 示す
SV(+) ① 契約する

— 図 (④ ~s /-z/) 1 ㊦ ㊦ «…という» 表れ, しるし (→ signal 類義); 前兆, 兆し «that 節»; 気配, 痕跡, 形跡 (㊦ しはしば否定文で); 【医】(医者が判断する) 徴候 (→ symptom); ㊦ (米) (野獣の) 足跡 ▶ *There's no sign of life here.* ここには人が住んでいる気配はない/*at the first sign of trouble* 面倒なことになりそうになったらまず/as a *sign of respect* [affection, weakness] 敬意[愛情, 弱さ]のしるしとして/find no *sign of cancer* 癌(がん)の兆しは見られない/The soccer craze *shows no sign of* slowing down. サッカーブームは衰える気配もない/*The signs are that* …という兆しが見られる/The arms limitation talks were successful. That's a *good sign*. 軍縮交渉は成功した。それはよい兆しである/a *sure sign that* the environment is improving 環境が改善されつつあるという確かな証拠/There's little *sign of* change. 変化の兆しはほとんどない/Wrinkles are telltale *signs of* aging. しわは老化の隠し切れない兆しである。

- (2) の show をクラスで引かせて、辞書を開いたままにしておけば、sign は数ページ先にあるので効率良く調べさせることができる。カタカナ語でも「サイン」というので、日本語との違いにも注意して、英語の sign の意味の広がりを見出しで確認させる。
- 教科書本文は名詞用法で、of hope という句が続いているのを確かめさせる。語義 1 には of を使った句が多数掲載されており(第 1, 2, 3, 4, 5, 9, 10 用例)、教科書本文も「表れ; 兆し」の意味になることを理解させる。語義 1 には㊦㊦と可算・不可算両方のロゴが併記されているので両方の用法が考えられるが、教科書では any sign なので不可算用法になっていることに注意させる。

(4) great 図 3, p. 847.

3 [[通例 図 の前で] (数量的に) 多大な, 著しく多い[高い, 長い]; (程度的に) 多大な, 非常な, 大きな(成功・名誉・喜び・楽しみなど) ▶ a *great amount* [deal] of money 大金/a *great many* [majority, part, body] of the crowd 群衆の大多数[大半] (㊦ *great majority* は時に婉曲的に「死者 (the number of the dead)」を表す)/a *great crowd* 大群衆/live to a *great age* 高年齢まで生きる/the *greater good* (多少のことを犠牲にして得られる) より大きな幸せ[利益]/a *great influence* [loss] 多大な影響[損失]/be of *great importance* 非常に重要だ (≡ be very important) (㊦ しはしば of great + 図 で very + 図 と同様の働きをする)。

- 教科書本文では a great many people のように many と共に使われていることから、語義 3 の「(数量的に) 多大な, 著しく多い」に当たることを理解させる。
- 辞書の第 2 用例が、教科書本文と同じく many を使っているのチェックさせる。

Crown English Communication I, p. 119.

(1)leave you with the thought that all this happened
not so long ago.

(1) leave¹ 動他 ㉑ ㉒ , p. 1095.

㉑ 〈人などが〉「印象・選択肢などを」〈人〉に(あとに)残す, もたらす «with» ▶He left me with the feeling that I'd met him somewhere before. 私は彼を見ていつかどこかで会ったことがあると感じた/leave A with many debts 多くの借金をA〈人〉のもとに残す/She was left with no choice but to take legal action. 彼女には法的措置を取る以外に選択の余地はなかった。

- ・ 二重山形かっこ« »で囲った前置詞との連語表記が«with»となっている語義 ㉑ を参照させる。
- ・ 教科書本文が「…という考えをあなたに残したい=…ということを覚えておいてもらいたい(would like to leave you with the thought that …)」という意味になることを理解させる。㉒にも同様に with を伴う表現があるので, 注意を促すとよい。㉒は「«他の人に»〈人を〉預ける«with»」という形を取るため, 教科書本文とは合わないことを確認させる。

㉒ 〈人が〉〈人〉を残して行く, 置き去りにする (behind); «ほかの人に»〈人〉を預ける «with» ▶leave a dog in the car 車に犬を置き去りにする/I left the kids with [in the care of] my parents tonight. 今夜は子供たちを両親のところに預けてきた/Kenji will travel to Tokyo, leaving his family behind. 健二は家族を(家に)残して東京に旅行する予定である。